

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<u>上位目標：対象地域において思春期の妊娠数減少に貢献する。</u> 事業対象の4つの保健所が管轄する地域における思春期妊婦数（初回健診に訪れた数）は横ばいである。（事業開始時2014年：182人、事業1年目2015年：161人、事業2年目（本事業）2016年：184人）。上位目標は、事業終了後、対象地域の直接受益者の継続的な取組みにより、その達成に寄与していくものであり、短期的にはまだ数値的变化に表れていない。しかしながら、今後は減少傾向に向かっていくことが予測される。下記の「成果」で記載している通り、保健サービスの向上や啓発活動の推進により、若年妊娠で保健所を受診するケースが増えており、これは今後の減少に向けた肯定的な兆候であると言える。また若年層の妊婦の周産期リスクを軽減することに貢献したと言える。一方、保健所スタッフによると、山間部の非就学層の間で妊娠が増えていくという情報がある。現事業の枠組みでその対策は十分取れていないが、本事業で築かれた保健所スタッフ、学校教師、ピアリーダー、保健所ボランティアの協力体制を通じ、非就学層への働きかけを強化していくことが期待できる。
(2) 事業内容	<u>活動1. 保健所のリプロダクティブヘルスサービスの内容と提供環境の向上</u> 対象4地区のサン・ディエゴ、フティアパ、チチカステ、ヴィジャ・サンタの保健所の医師・看護師が、それぞれ思春期リプロダクティブヘルスを推進する活動の計画を立て、それに基づき、ピアリーダーや保健ボランティアと協力し思春期層への研修、保健フェア（保健啓発イベント）、ポスター作りなどの活動を4地区合計で34回実施した。また、事業1年目に設置したピアルームを活用して、保健所スタッフが思春期層へのカウンセリングを定期的実施したことで、保健所スタッフが直接思春期層に働きかけることのできるシステムが定着した。ピアルームが存在し、そこで専門性を持った保健所スタッフが対応してくれることは、リプロダクティブヘルスに関心や不安を持ちながらも、誰にも相談できず一人で抱え込むことが多い思春期層のニーズに的確に対応しており、それは利用者数の増加という形で現れている。 また、山間部で増加している思春期妊娠予防に取り組むため、特に保健所から遠方の山間部の思春期層や非就学青少年に対する啓発活動を強化し、各保健所スタッフは思春期層の妊婦が多い村へ出向き、家庭訪問をして状況を確認し、産前健診を促すとともに出産後の家族計画についても助言した。 保健所スタッフの能力強化を図るため、ジェンダー、思春期の性、自尊心、コミュニケーションについて6月、8月に合計3日間のフォローアップ研修を実施した。6月は12人、8月は6人の保健所スタッフに参加した。8月は研修医の入れ替わりの時期にあたり出席者が少なかったため、新しく配属になった研修医など10人を対象に2017年2月、1日間の追加基礎研修を実施した。また5月、7月、10月に、対象4地区の保健所が管轄する47村に在住する保健ボランティアを対象として合計5日間の研修を実施し、テーマとして思春期層の妊娠に関する国家政策、自尊心、思春期の性、権利などを取り上げた。5月、7月は63人が参加し、10月はコーヒーその他農作物の収穫時期に当たった影響で参加者は42人であった。保健ボランティアは、コミュニティにおける思春期層への家庭訪問などで、家族計画の大切さを訴えたり、体に不調を感じたら保健所に行くことを推進したりして、保健所スタッフに協力した。 <u>活動2. 学校教師、父母、保健所の協力体制の強化</u> 対象4校の学校は、生徒の思春期リプロダクティブヘルスに関する悩みに答えるため、それぞれ校内に質問箱を設置し、教師が、無記名で寄せられた生徒たちからの質問に、ホームルームなどの時間を利用して定期的に回答した。また学校に設置されたピアルームでピアリーダーと共に生徒の相談に対応し、校内でピアリーダーが行う他の生徒に対する啓発活動や、保健所が実施する啓発活動を共に実施した。 対象4校の教師に対する研修は、昨年次から継続している教師に対して8月、9月、10月に合計3日間のフォローアップ研修を実施し、各月40人、42人、41人が受講した。新規の教師については9月、10月、11月に合計5日間の研修を実施し、各月48人、47人、40人が受講した。いずれの研修でも、思春期層の性、権利、ジェンダー、性感染症、家族計画等をテーマとして取り上げた。また、4月～6月には対象4校の思春期層の父母96人が3回の研修に参加し、同じテーマ

について学んだ。学校教師、父母、保健所がお互いに共通認識を持って思春期層に対応できるよう、研修では協力体制の強化について強調した。

活動3. ピアリーダーの育成

ピアリーダーは1年次から継続のリーダー36人に新規のリーダー64人を加え100人で活動を開始した。保健所や学校教師と協力して、同じ学校の生徒や小学生に対する自尊心、価値観、性に関する研修や、サッカー大会、映画会など楽しみながら啓発ができる活動などを計画した。また、4月～8月に5回（各回1日間）フォローアップ研修を実施し、各回平均95人のピアリーダーが受講した。研修では、自尊心、思春期層の性、権利、大人とのコミュニケーション、性感染症、ジェンダー、避妊、ピアリーダーの役割などについて理解を深めた。

また、事業終了にあたり、対象4地区のピアリーダー、保健ボランティア、学校教師総勢80人、および事業関係者12人が一堂に会し、県の保健事務所長も出席する中、自分たちの活動成果を発表し、意見交換する合同会議を開催した。参加者は互いの活動を興味深く聞き、自分たちの経験や今後に向けて必要なことを話し合う中で、今後の活動へのモチベーションを高めた。

活動4. 思春期層の知識向上のための活動

対象4校のピアリーダーは、活動3の計画に沿って、自尊心、価値観、性に関する研修を行なった他、思春期層のリプロダクティブヘルスに関する啓発ポスターを作成するなどの活動を合計33回実施した。事業後半には非就学の思春期層への研修を強化し、ヴィジャ・サンタ地区や、フティアパ地区のリーダーは若年妊娠の多い村を訪問し各々に話をする等の活動も実施した。各地区の活動と参加者数は下表の通り。

【活動内容と参加者数】

サン・ディエゴ	・研修活動（120人） ・ポスター作製（40人） ・健康フェア（582人） ・バレーボール大会（74人） ・清掃活動（110人） ・植林活動（30人） ・マラソン大会（358人） ・非就学児対象研修（29人）
フティアパ	・研修活動（166人） ・映画会（68人） ・村への訪問研修（18人）
チチカステ	・研修活動（304人） ・質問会（29人） ・村への訪問研修（64人）
ヴィジャ・サンタ	・研修活動（233人） ・サッカー大会（43人） ・個別相談会（6人） ・村への訪問研修（20人）

(3) 達成
された成果

事業目標：対象地域における思春期層リプロダクティブヘルスケアが向上する。

【指標1】思春期層に対するリプロダクティブヘルスに関するカウンセリング数が10%増加する。
⇒達成。4カ所の保健所における本事業期間中のカウンセリング数は1,011件で、2015年の同期間のカウンセリング数の623件から62%増加した。

【指標2】思春期層の妊婦の産前健診の受診件数が10%増加する。

⇒達成。

2015年(1月～12月)：623件(新規妊婦数161人、1人あたり3.9回)

2016年(1月～12月)：814件(新規妊婦数182人、1人あたり4.5回)

4カ所の保健所における、思春期層の妊婦の産前健診受診数は623件から814件へと31%増加した。また、1人当たりの妊婦健診回数も3.9回から4.5回へと15%の増加が見られた。保健所や保健ボランティアを通じて行われた、思春期層の妊婦に対する徹底した産前健診受診への声掛け、保健所のサービスの向上(丁寧な診察・相談対応など)が奏功したものと考えられる。

【指標3】リプロダクティブヘルスに関するサービスを受けた思春期層の80%がサービスに満足する。

⇒達成。ピアルームを訪れた339人の思春期層に対してアンケートを行ったところ、332人(98%)が安心してリプロダクティブヘルスに関する相談をすることができたと答えた。また全員がピアルームを他の思春期層にも紹介したいと答えており、満足度が高かったものと言える。

成果1：保健所による思春期層へのリプロダクティブヘルスケアサービスの内容と提供環境が向上する。

【指標1-1】保健所において策定された思春期リプロダクティブヘルスに関する活動が実施されている。

⇒達成。対象の4カ所の保健所が策定した思春期リプロダクティブヘルスに関する活動計画に基づき、研修、ポスター作り、健康フェアの他、植林活動やサッカー大会など実施され、延べ3,984人が参加した。

【指標1-2】保健所スタッフがピアサポーター(思春期リプロダクティブヘルスに関する相談員)として活動している。

⇒達成見込。対象の保健所の4カ所とも担当のスタッフが入れ替わったが、新しく配属されたスタッフを対象とした研修を実施し、同スタッフが各地区でピアサポーターとしての役割を担うことを促進している。

【指標1-3】ピアルームが年間約300名の思春期層に利用される。

⇒達成。2016年3月～2017年2月までの1年間で、4校の学校と4カ所の保健所に設置したピアルームの利用者数は延べ2,734人(学校1,786人、保健所948人)にのぼり、目標の9倍となった。

【指標1-4】保健所スタッフの思春期リプロダクティブヘルスに関する知識が向上する。

⇒達成。12人の保健所スタッフに避妊、性感染症、事後避妊などの専門知識を問う事前テストを実施したところ平均点は66点であった。人員の交代などがあったため事前テストを受けた12人のうち、事後テストを受けたのは6人であったものの、平均点は75点へ向上しており、研修を受講した保健所スタッフは知識を向上させた。

【指標1-5】研修を受けた保健ボランティアが保健所と連携してリプロダクティブヘルスに関する啓発活動を村で実施している。

⇒達成。研修を受けた保健ボランティア34人に対して自尊心や、避妊、性感染症などについての事前・事後テストを行ったところ、平均点が63点から88点へと向上し、知識が向上したことが確認できた。保健ボランティアは、保健所スタッフやピアリーダーと協力し健康フェアな

どを実施した他、思春期層の妊婦が多い村に出向き個別訪問するなど、リプロダクティブヘルスに関する啓発活動を23回実施した。

成果2：学校教師、父母（PTA）、保健所間の協力体制が確立される。

【指標 2-1】教師が保健所と共同で策定した活動を実施している。

⇒達成。教師と保健所が共同で策定・計画した全ての活動を協力して実施した。校内のピアルームでは主に教師、時には保健所スタッフやピアリーダーが協力し4校合計922人の思春期層のリプロダクティブヘルスに関する相談に対応した。

【指標 2-2】フォローアップ研修を受ける学校教師50人が適切な時期にリプロダクティブヘルスに関し保健所へ思春期層を紹介している。

⇒達成。事業期間中に、教師から保健所へ186件の紹介が行われた。相談の多くは避妊に関することであった。

【指標 2-3】教師の思春期リプロダクティブヘルスに関する知識が向上する。

⇒達成。本事業で新規で研修を受ける教師に、研修開始時（47人）と研修終了時（37人）に思春期リプロダクティブヘルスや自尊心などに関する知識の向上度を測るためのテストを実施した結果、平均正答率が51%から73%へ向上した。

【指標 2-4】思春期層の父母の思春期リプロダクティブヘルスに対する知識が向上する。

⇒達成。研修を受講した93人に対して自尊心や、避妊、性感染症などの知識を問う事前事後テストを行った結果、平均点が60点から83点に向上し、知識の向上が確認された。

成果3：ピアリーダーの能力が向上する。

【指標 3-1】ピアリーダー100名の80%が思春期リプロダクティブヘルスに関する活動に参加している。

⇒達成。ピアリーダー83人（83%）が日常的に活動に参加している。ピアリーダー達は、ピアルームの活用を促進し、同世代の生徒に学んだことを伝えたり、啓発用の掲示板を作ったりして思春期リプロダクティブヘルスを促進した。

【指標 3-2】ピアリーダーにより策定された活動計画の80%以上が実施される。

⇒達成。ピアリーダーにより策定された活動計画の100%（33回）が実施され、のべ2,294人が参加した。校内や小学校におけるピア教育や、健康フェア、サッカー大会などの計画を立て、保健所や教師の協力を得て実施された。またリプロダクティブヘルスに関する啓発ポスターを作成し、校内に掲示した。

【指標 3-3】ピアリーダーが、適切な時期に各保健所へ相談している。

⇒達成。ピアリーダーは役割を果たしており、自分が相談を受けた思春期層を保健所に紹介したり、相談を促したりしている。事業期間中にピアリーダーから保健所へ138件の紹介が行われたことが確認された。

【指標 3-4】ピアリーダーの思春期リプロダクティブヘルスに関する知識が向上する。

⇒達成。91人のピアリーダーが自尊心や、避妊、性感染症などの知識を問う事前事後テストを受け、平均点が63点から91点に向上した。

成果4：思春期層のリプロダクティブヘルスに関する知識が向上する。

【指標 4-1】思春期の青少年約2,000人が、学校内外でのピア教育、レクリエーション活動、パンフレット配付等により、リプロダクティブヘルスに関する知識・サービスについて啓発される

⇒達成。4地区で述べ3,984人の思春期層が、学校内外でのピア教育や保健所主催の健康フェア、リサイクルフェア、サッカー大会などに参加し、その際に配布された、パンフレットやちらしなどを通じて、リプロダクティブヘルスに関する知識・サービスについて啓発された。

	【指標 4-2】80%の思春期層の知識が向上する。 ⇒達成。対象4校の生徒に事前テスト（200人）および事後テスト（158人）を実施した。思春期リプロダクティブヘルスや避妊、性感染症、自尊心などの知識を問うテストで、158人中155人（98%）が知識を向上させた。（平均正答率 50%→89%）
（４）持続 発展性	対象4地区では、保健所スタッフ、学校教師、保護者、ピアリーダー、保健ボランティアと本事業で育成した人材それぞれが、思春期リプロダクティブヘルスに関する活動に意欲を見せており、エル・パライス県保健事務所や対象4地区の保健所のリーダーシップのもとでの活動継続が見込まれる。事業終了時の実施した合同会議に出席したエル・パライス県保健事務所長は、ピアリーダーの活動を保健所とともにバックアップしていく体制を整えたいと発言していることから、本事業活動およびその成果が認知され、その活動が推進されることが期待できる。 また、本事業を知った他県のフランシスコ・モラサン県保健事務所や Cholteca 県保健事務所 思春期外来、次期事業対象地であるエル・パライス保健所のスタッフおよび青年海外協力隊員たちが、本事業の取り組みについて詳しく聞きたいと事業地や当団体事務所に来訪しており、他地域への波及効果が期待される。（特にピアリーダーによるピア教育を取り入れたいとの要望が多かった。） さらに、ホンジュラス共和国大統領夫人が思春期妊娠予防を推進していることから、政策面からも継続と発展が期待できる。当団体としても今後同国大統領夫人室へコンタクトを取り、本事業の取り組みおよび成果を報告し、思春期のリプロダクティブヘルスという課題に政府から一層の支援がなされるよう、その可能性を探っていく。